

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)					
H030P103		心理学統計法(Psychological Statistics)				心理学基礎系					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員					
選択	2	1年	福祉健康科学部	後期		氏名 中里 直樹 E-mail nakazato-naoki@oita-u.ac.jp 内線 7530					
授業の概要 心理・福祉に関する身近な事象を統計的に処理する方法(基礎統計量、標本理論、相関係数、 χ^2 検定、t検定、分散分析など)を体系的に学習し、心理専門職としての基礎的知識・技能を習得する。また、PCによる基本的な分析の実施を学ぶ。											
具体的な到達目標											
DP等の対応(別表参照)						1	2				
目標1	基本的な統計理論(データの性質、統計的仮説検定など)について説明できる。					○	○				
目標2	基本的な統計分析(t検定、相関分析など)について理解し、説明できる。					○	○				
目標3	統計学的な視点から心理事象を見つめ、心理統計の意義を説明できる。					○	○				
目標4	PCによる基礎的な分析が実施できる。					○	○				
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											
授業の内容											
1	心理学統計法概論										
2	データの性質(1): 名義・順序尺度										
3	データの性質(2): 間隔・比率尺度										
4	度数分布と統計図表										
5	代表値と散布度										
6	正規分布および様々な分布										
7	標準正規分布										
8	標本理論										
9	中間試験										
10	統計的仮説検定の手続き										
11	平均値の差の検定(1): 対応のない/対応のあるt検定										
12	相関とその検定(1): 共分散										
13	相関とその検定(2): 相関係数と無相関検定										
14	比率の差の検定: χ^2 検定										
15	平均値の差の検定(2): 分散分析										
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	ライティング課題や中間テスト、グループ・ディスカッション、PC実習を活用して、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。ライティングでの質問に対しては、次の授業時に返答する。					工夫 その他			
時間外学習	標準	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)									
事後	事後	授業で学習したことを配布資料や参考文献も用いて復習し、ライティング課題に取り組み(15h)。									
教科書	・「Excelで今すぐはじめる心理統計: 簡単ツールIADで基本を身につける」小宮あすか、布井雅人著(2018)。講談社 ・適宜、プリント資料を配布する。										
参考書	・「心理・教育のための統計法 第3版」山内光哉著(2009)サイエンス社 ・「よくわかる心理統計」山田剛史、村井潤一郎著(2004)ミネルヴァ書房 ・Discovering statistics using IBM SPSS Statistics (5th ed.) Field, A. P. (2018) London: SAGE.										
評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への積極的参加(ライティング課題の記述内容や質問など)	20%	○	○	○	○						
中間試験	40%	○		○							
最終レポート	40%	○	○	○	○						
授業回数	授業回数の3分の1を超えて欠席した場合、最終レポートを受講しない。										
注意事項	「心理学研究法Ⅰ」を履修する前に受講することが望ましい。										
備考	令和2年度(2020年度)以降入学生に対しては選択科目 それより前の年度の入学生に対しては必修科目										
リンク	URL										

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主課】/(分野)						
H030P101		心理学実験(Psychological Experiments)				心理学基礎系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 村上 裕樹 E-mail murakami-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 6106						
授業の概要	心理学で行われる実験、調査、検査方法を体系的に学ぶことで、こころのメカニズムについて研究する方法・技術(実験の計画立案や統計の基礎知識を含む)を習得する。さらに、実験によって得られた結果について、科学的報告書の形式に従ったレポートにまとめる方法について学ぶことを目的とする。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	心理学の実験、調査、検査を体系的に学ぶことで、こころのメカニズムについて研究する方法・技術の基礎を習得できる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	科学的報告書の形式で、実験の方法・結果を記述することができる。	○										
目標3	実験結果について考察することができる。	○										
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 オリエンテーション												
2 錯視: ミューラー・リェル①実験の実施												
3 錯視: ミューラー・リェル②データ解析												
4 記憶: 系列位置効果①実験の実施												
5 記憶: 系列位置効果②データ解析												
6 学習: 鏡像描写												
7 イメージ: 心的回転												
8 認知的葛藤: ストループ効果												
9 知能テスト(集団式)												
10 尺度構成法: 一対比較法												
11 質問紙法												
12 生理指標												
13 感情の測定												
14 社会的促進①実験の実施												
15 社会的促進②データ解析												
ラーニング	A: 知識の定着・確認	○	各実験の実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)として参加体験することで理解を深める。				工夫 その他の					
	B: 意見の表現・交換	○	実験で得られたデータをまとめ、それを元に考察する。さらに研究を発展させるためのアイデアを提案し、レポートにまとめる。									
	C: 応用志向											
	D: 知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。										
	事後 学習	授業で得られたデータをまとめ、それを元に考察する。さらに、研究を発展させるためのアイデアを提案する(37.5h)。										
教科書	宮谷真人・坂田省吾(代表編集)(2009). 心理学基礎実習マニュアル, 北大路書房											
参考書	森敏昭・吉田寿夫(編著)(1990). 心理学のためのデータ解析テクニカルブック, 北大路書房											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業への取り組み	50%	○									
	レポート	50%	○	○	○							
注意事項	私語厳禁。 心理学実験に必要な基本的なルールを学ぶことができますので、卒業研究で心理学実験を実施する可能性のある人は必ず受講してください。											
備考	「認定心理士」資格では、「基礎科目」(心理学実験実習)に区分される科目である。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030P205		感情心理学(感情・人格心理学B)(Psychology of Emotion)				生理認知心理学系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
選択	2	1(令和2年度入学生)・3	福祉健康科学部	後期		氏名 村上 裕樹 E-mail murakani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 6108						
授業概要	感情研究のさまざまな知見について学び、感情の理論についての理解を深めます。感情は意識できるものだけではなく、自分でも意識できない感情もあります。そのような点も踏まえ、感情の生物学的基礎を理解した上で、客観的な感情の測定方法について学びます。また、感情が人の行動に及ぼす影響や、感情のコントロールの仕方について理解し、感情の理論を心理学研究に応用する技術を身につけます。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	感情の理論を説明できる。											
目標2	感情の理論を応用することができる。											
目標3	感情の理論を心理学研究に応用することができる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	感情心理学とは											
2	感情の生物学的基盤 中枢神経系											
3	感情の生物学的基盤 末梢神経系、神経伝達物質、HPA系											
4	感情の理論 感情の起源											
5	感情の理論 認知が先か感情が先か											
6	感情の機能											
7	感情と進化 個体の安全と生存に関わる感情											
8	感情と進化 集団生活に関わる感情											
9	感情と認知											
10	感情と目撃証言											
11	感情と発達											
12	感情と自己注目											
13	感情と適応的・不適応的自己注目											
14	感情と遺伝子											
15	感情と健康											
ラ フ ク エ ス テ ィ ン グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					○ ミニツペーパー。発問。	エ 夫 の 他 の					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。 事後 授業で学んだことについての復習をし、紹介された参考文献について精読することで理解を深める(15h)。											
教科書	なし。資料を配布する。											
参考書	・大平英樹(編) (2010). 感情心理学 有斐閣アルマ ・北村英哉・木村晴 (2006). 感情研究の新展開 ナカニシヤ出版											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業への取り組み	50%	○	○	○							
	レポート課題	50%	○	○	○							
注意事項	私語厳禁。											
備考	なし。											
リンク	URL											

ナンバリング	H030P203					授業科目名(科目の英文名)	行動分析学(学習・言語心理学)(Behavior Analysis (Psychology of Learning and Language))		区分・【新主題】/(分野)	生理認知心理学系									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員													
選択	2	2	福祉健康科学部	後学期		氏名 佐藤智治 E-mail ssato@oita-u.ac.jp 内線 7531													
授業の概要	科学的に実践を展開するための学習・言語心理学の一つである行動分析学の原理と技法、並びに、対人援助に適用する際に留意すべき事例を学修することで、臨床心理学的専門職者としての「知識・技能・価値」を修得できる。																		
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)																		
目標1	行動分析学の原理と技法について説明できる(知識)。																		
目標2	行動分析学の原理と技法を実生活に適用できる(技能)。																		
目標3	行動分析学の原理と技法を対人援助に適用する際の留意点を説明でき、実生活に適用できる(価値)。																		
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1	心とこころ																		
2	心理学における行動分析学																		
3	行動の原因																		
4	行動とは?																		
5	強化と弱体化(4つの基本随伴性)																		
6	消去と復帰																		
7	刺激性制約、行動変容																		
8	シェイピングとチェイニング																		
9	不適切行動を減少させるには?																		
10	実験的行動分析																		
11	強化スケジュール																		
12	単一被験体法																		
13	言語行動																		
14	言語行動の種類																		
15	文字が関与する言語行動																		
ラ	A:知識の定着・確認	○	演習、小テスト、小レポート、予習、復習、宿題、調べ学修(論文、書	工	動画の活用、LMS(Moodle)の活用														
ィ	B:意見の表現・交換	○	簡、インターネット等)	夫															
ニ	C:応用志向	○	学び合い、教え合い、	他															
テ	D:知識の活用・創造		プレゼンテーション、学びの省察、	の															
グ																			
時間外学修の内容と時間の目安	準備 教科書やMoodleで予習し、必要に応じて、論文、書籍、インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと(1週あたり90分/総計22.5時間)。																		
事後学修	講義で学修した内容を振り返り、講義で扱った内容や関連する課題について論文、書籍、インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと(1週あたり90分/総計22.5時間)。																		
教科書	・杉山尚子(2005) 行動分析学入門ーヒトの行動の思いがけない理由。集英社新書(ISBN978-4-087-20307-3)(本体660円+税)																		
参考書	・講義内容に関連した資料を必要に応じてMoodleにアップする。 ・坂上貴之・井上雅彦(2018) 行動分析学入門ー行動の科学的理解をめざして。有斐閣アルマ(ISBN978-4-641-22102-4)(本体660円+税)																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
試験		50%	○	○	○														
発表、討議		20%	○	○															
レポート、ライティング		20%	○	○	○														
注意事項	講義内でMoodleを使用することもあるので、Moodleを閲覧できる端末(スマホ、タブレット端末、ノートPCなど)を持参すること。また少なくとも週に1度はMoodleのこの科目のページを閲覧し、準備学修、事後学習に活用すること。																		
備考	特になし。																		
リンク	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)											
H030P303		発達と学習の心理学Ⅰ (Developmental and Educational PsychologyⅠ)				発達・教育心理学系											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履 修 限	担当教員											
選択	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 麻生良太、藤田敦 E-mail ryoaso@oita-u.ac.jp, a-fujita@oita-u.ac.jp 内線 7584,7614											
授業の概要	子どもの身体的、心理的発達の過程と障害、および、そこに関わる家庭環境、保育・教育環境の役割・影響について理解し、教育の現場における発達支援・学習支援の考え方について学ぶ。																
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 誕生から幼児、児童期を経て青年期に至るまで心身の発達と、家庭環境や教育環境の役割について説明することができる。							○										
目標2 子どもの成長と学習について、発達・教育心理学の観点から評価・分析し、具体的な支援を構想することができる。							○										
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 発達と教育を結ぶ心理学 (麻生・藤田)																	
2 胎生期の発達と環境 (麻生)																	
3 からだと脳の発達 (麻生)																	
4 情動と動機付けの発達 (麻生)																	
5 自己の発達 (麻生)																	
6 言語の発達 (麻生)																	
7 認知の発達 (麻生)																	
8 人間関係の発達 (麻生)																	
9 社会性・道徳性の発達 (麻生)																	
10 心理的発達の過程における障害 (麻生)																	
11 学習理論1～行動の要素に注目する学習観 (藤田)																	
12 学習理論2～こころの内面に注目する学習観 (藤田)																	
13 学習の動機付け1～学びのエネルギー (藤田)																	
14 学習の動機付け2～学習行動の要素と動機付けの心理 (藤田)																	
15 学習の障害と教育 (藤田)																	
ラ ッ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認		小課題や課題に関する小グループのディスカッションを実施し、課題意識を高め、多角的多面的に視野をひろげる。										エ ッ ク ス の 他 の				
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安		準備 現代の子どもの発達や学校教育における課題について関心を持ち、自分なりの考え(教育観、学習観、発達観)を整理しておく。(30h)															
事後学習		発達や教育に関する自らの考えを、心理学的な視点を加えて再考する。(30h)															
教科書		教科書は使わない。適宜必要な資料を配付する。															
参考書		幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領(平成28年3月告示 文部科学省)															
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	期末試験(筆記試験)		80%	○	○												
	小課題、グループワーク等		20%	○	○												
注意事項		学びを深めるために、評議者から出される発問や課題に対して、積極的に取り組むこと。															
備考																	
リンク		URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)										
H030P304		発達と学習の心理学Ⅱ (Developmental and Educational PsychologyⅡ)				発達・教育心理学系										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2	教育学部	前期	1	氏名 藤田敦・麻生良太										
		E-mail a-fujita@oita-u.ac.jp,ryoaso@oita-u.ac.jp 内線 7614,7584														
授業の概要	子どもが自己を確立し、社会的に自立していくまでの発達過程と、その過程において生じる心理的な課題を整理し、学校における学習活動や社会的な経験の意義、学習環境や教師の役割、教育的支援の実際について学ぶ。															
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	幼児・児童期から青年期までの心身の発達及び学習過程を理解し、心理的側面に必要な教育的支援を構想できる。					○										
目標2	社会的な自立に至る成長を促す上での教師の役割を理解し、説明することができる。					○										
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 幼児期から青年期に至る発達と教育(麻生)																
2 社会的な自立に関わる発達と課題(麻生)																
3 アイデンティティの生涯発達(麻生)																
4 キャリア形成と生涯発達(麻生)																
5 自己実現・キャリア形成としての学習(麻生)																
6 発達過程と学習過程の評価と課題(藤田)																
7 習得的学力を促す学習法と教材(藤田)																
8 探究的・活用的学力を促す授業づくり(藤田)																
9 問題解決力を育む授業(藤田)																
10 言語的活動と学習・記憶の関係(藤田)																
11 確かな理解と記憶を促す授業(藤田)																
12 主体的・意欲的な学習を引き出す授業づくり(藤田)																
13 学級経営における教師の役割・姿勢・態度(藤田)																
14 自己理解を深め自己肯定感・自己実現を促す教育的支援(藤田)																
15 子どもの発達と教育を支える学校と教師の役割(藤田)																
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認		具体的な教育場面を想定した問題に対する話し合いや、教育的な支援の 実践を考える小課題を実施する。		工夫 その 他の											
準備 学習		現代の子どもの発達や学校教育における課題について関心を持ち、自分なりの考え(教育観、学習観、発達観)を整理しておく。(30h)														
事後 学習		発達と教育に関する自らの考えを、心理学的な視点を加えて再考する。(30h)														
教科書		教科書は使わない。必要な資料は講義中に配布する。														
参考書		幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)														
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法				割合	目標 1.	目標 2	目標 3.	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	期末試験(筆記試験)				80%	○	○									
	小課題、グループワーク等				20%	○	○									
注意事項		学びを深めるために、講義者から出される疑問や課題に対して、積極的に取り組むこと。														
備考		なし														
リンク		URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H020P302		老年心理学(発達心理学B)(Psychology of Aging (Developmental Psychology B))				発達・教育心理学系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	理・限	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 岩野卓 E-mail iwano-suguru@oita-u.ac.jp 内線 6108						
授業の概要	老年期は身体的な変化だけでなく、心理的な変化も多い時期です。この講義では、Bio-Psycho-Socialモデルの観点から老年期の心理的な特徴を学んでいきます。また、老年期特有の問題を理解し、円滑に交流するための技術や知識を紹介します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	老年期の特徴を説明できる。											
目標2	老年期の問題を説明できる。											
目標3	老年期の問題を解決するための技術を実践できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	老年期と心理学											
2	身体の高齢化と心①											
3	身体の高齢化と心②											
4	認知機能の変化①											
5	認知機能の変化②											
6	逆行機能と論理的思考											
7	認知症①											
8	認知症②											
9	中間テスト											
10	アセスメント(心理検査)											
11	死と家族について											
12	心理学的介入①											
13	心理学的介入②											
14	サクセスフル・エイジング											
15	老年心理学											
ラ ブ ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ グループディスカッション、ロールプレイ、技法の実演と模倣、課題自己探索型のレポート、感想シートを利用した学生からの意見収集と教員からのフィードバック、老人体験キッドの使用、聞き取り調査	工夫 その他	映像資料の利用、学生のニーズに合わせた講義内容の調整								
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	中間テストの準備(8h) 配布資料の復習(15h)										
教科書	資料を配布します。											
参考書	大川一郎・土田宜明・宇都宮博・日下菜穂子・奥村由美子 2011 シリーズ生涯発達心理学⑤エピソードでつむぐ老年心理学 ミネルヴァ書房 谷口幸一・佐藤真一 2007 エイジング心理学―老いについての理解と支援 北大路書房											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	中間テスト	35%	○		○							
	期末テスト	65%	○	○								
注意事項	受講生の希望や理解を反映するため、講義内容に関する感想や意見を毎回の講義で提出して頂きます。											
備考	特になし。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H020P511		障害者・障害児心理学(Psychology for Adults & Children with Disabilities)					臨床心理学系										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員											
選択	2	1年生	福祉健康科学部	後期		氏名 池永恵美 E-mail m-ikenaga@olta-u.ac.jp 内線 6107											
授業の概要	本講義では、主に知的障害、発達障害、肢体不自由等について取り上げ、個々の障害の特徴と必要な心理学的支援について学習することを目的とする。また特に発達障害に関しては、生涯発達の観点から乳幼児期から成人期まで各発達段階で起こりやすい心理社会的問題や必要な心理学的支援について講義を行う。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 知的障害、発達障害、情緒障害、肢体不自由について個々の障害の特性を説明できる。								○									
目標2 個々の障害について、心理学的支援の方法について説明できる。								○	○								
目標3 発達障害児・者の生涯発達とそれぞれの時期における困難・課題について説明できる。								○	○								
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 障害とは/知的障害児・者の理解と支援																	
2 発達障害に関する概説																	
3 発達障害児・者の理解(1)自閉症スペクトラム障害の概説																	
4 発達障害児・者の理解(2)自閉症スペクトラム障害の歴史																	
5 発達障害児・者の理解(3)自閉症スペクトラム障害者の体験世界を知る																	
6 発達障害児・者の理解(4)ADHD																	
7 発達障害児・者の理解(5)学習障害																	
8 発達障害児・者と生涯発達支援:(1)乳幼児期																	
9 発達障害児・者と生涯発達支援:(2)学齢期																	
10 発達障害児・者と生涯発達支援:(3)青年期、成人期																	
11 子どもによくある心身の障害の理解と支援:チック、緘黙、心身症																	
12 肢体不自由児・者の理解と支援																	
13 障害児・者への支援(1)動作法とは																	
14 障害児・者への支援(2)動作法実習																	
15 障害児・者への支援(3)動作法実習																	
ラーニング	A:知識の定着・確認					○	ミニッツペーパー					工夫その他の					
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向					○											
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	授業で学習する各障害について、インターネットや書籍を用いて予習する(5h)。															
	事後学習	授業中に配布した資料を用いて復習する(15h)。授業で学習した各障害について、自分で書籍やインターネット等を用いて知識・理解を深める(15h)															
教科書	教科書は指定しない。授業中に配布するプリントを使用する。																
参考書	井澤信三・小島道夫編「障害児心理入門」(ミネルヴァ書房)2010年 杉山登志郎著「発達障害の子どもたち」(講談社現代新書)2007年 杉山登志郎著「発達障害のいま」(講談社現代新書)2011年																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	学期末試験	70%	○	○	○												
	ミニッツペーパーの内容	30%	○	○	○												
注意事項	特になし																
備考	特になし																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の○ 有無	
教員の実務 経験	臨床心理士、公認心理師
実務経験を いかした教 育内容	授業では事例や実習（臨床動作法）をまじえながら講義を行う

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
H030P512		人格心理学(感情・人格心理学A)(Psychology of Personality (Psychology of Emotion and Personality A))					臨床心理学系														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員															
選択	2	2年	福祉健康科学部	前期		氏名 溝口剛 E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7522															
授業の概要												人の心を理解する上で、パーソナリティ(人格)の理解は欠かせないもののひとつである。この授業では、心理学におけるさまざまなパーソナリティ理論を紹介し、パーソナリティを理解する方法について概説する。その上で、さまざまな心理的・発達の問題をパーソナリティという観点から理解していく力を身につける。									
具体的な到達目標												DP等の対応(別表参照)									
目標1 心理学における主要なパーソナリティ理論について説明できる。												1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2 パーソナリティを理解する方法について説明できる。												○									
目標3 さまざまな心理的・発達の問題をパーソナリティの観点から理解し、説明できる。												○									
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 パーソナリティとは何か①(自己理解と他者理解)																					
2 パーソナリティとは何か②(概念、古典的パーソナリティ分類)																					
3 パーソナリティの類型論																					
4 パーソナリティの類型論と特性論																					
5 パーソナリティの特性論																					
6 精神分析理論とパーソナリティ①(フロイトのパーソナリティ理論)																					
7 精神分析理論とパーソナリティ②(ユングのパーソナリティ理論)																					
8 現象学的理論とパーソナリティ(ロジャーズのパーソナリティ理論)																					
9 パーソナリティ理解の方法①(観察法)																					
10 パーソナリティ理解の方法②(面接法、検査法)																					
11 パーソナリティの形成過程①(人格形成の基礎・原理)																					
12 パーソナリティの形成過程②(乳児期～幼児期前期におけるパーソナリティの発達)																					
13 パーソナリティの形成過程③(幼児期後期～青年期におけるパーソナリティの発達)																					
14 精神疾患とパーソナリティ(人格構造とパーソナリティ障害)																					
15 まとめ																					
ラ イ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○	毎回授業の終わりに質問や感想を記入したライティングを提出させる。									エ ス セ ン ス の 他 の	事例を交えて講義することによって、より共感的な理解を促し、省察を深める。								
ニ テ ィ ン グ	B:意見の表明・交換	○	今回の授業冒頭でライティングの内容を取り上げて解説を加えることによつて、対話型の授業となるよう努めると同時に、学生のさらなる省察を深める。																		
グ ラ フ	C:応用志向																				
	D:知識の活用・創造																				
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 学修	毎回取り上げるテーマに関して、参考文献等に基づいて予習する(15h)。																			
	事後 学修	授業で学習したことを活かし、配布資料や参考文献を用いて復習する(30h)。																			
教科書	教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。																				
参考書	近藤卓(編著) 2004 パーソナリティと心理学 大修館書店 詫摩武敏・瀧本幸雄・鈴木乙史・松井量(著) 1990/2003 性格心理学への招待—自分を知り他者を理解するために— サイエンス社																				
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10									
	ライティング	50%	○	○	○																
	期末試験(テスト)	50%	○	○	○																
期末試験(テスト)は、状況によっては最終レポートに変更することがありうる。																					
注意事項	なし。																				
備考	なし。																				
リンク	URL																				

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	臨床心理士、公認心理師
実務経験を いかした教 育内容	事例を交えて講義することによって、より共感的な理解を促し、省察を深める。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030P502		臨床心理学実践論(心理学的支援法)(Theory and Practice on Clinical Psychology(Methods of Psychological Support))				臨床心理学系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・選	担当教員						
コース必修	2	2年	福祉健康科学部	後期		氏名 武内珠美 E-mail ttakeuti@oita-u.ac.jp 内線 7811						
授業の概要 実践的な臨床心理学的支援法について学ぶ。心理臨床場面においては、心理アセスメントと心理的支援法を適切に組み合わせて相談者の支援を行わなければならない。心理的支援を必要としている人の問題や目的、支援を展開する場・組織によっても、支援法とその実践は異なる。ことばを用いるカウンセリングという支援法を中心として、身体に働きかける方法やイメージを用いる方法、認知行動療法など、臨床心理学的支援法のさまざまな理論と実践について概説する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	臨床心理学的支援の基本的な考え方や進め方について学ぶ。											
目標2	基礎的なカウンセリングの理論や応答技法、過程で生じてくる問題への対応について学ぶ。実際にロールプレイも行う											
目標3	多様な臨床心理学的支援法と実践について学ぶ。また、臨床心理学的支援法の効用と限界についても考える。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 どんな心理的相談や支援に向き合うだろうか？その時には、どう対応する？(いろいろなバリエーションで、体験的に考える)												
2 相談に来る前の人の不安はどうだろうか？(体験的に考える)												
3 相談・支援に入る前の準備と、心理査定から相談・支援への流れ												
4 心理面談の基本的な進め方と、過程で生じてくる問題への対応。個人情報への配慮。心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援												
5 代表的な心理的支援法について。基本的なカウンセリングの理論と技法												
6 カウンセリングのロールプレイ(よい聴き方の実習)良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法												
7 DVDでみるカウンセリングの実践												
8 認知行動療法(DVD)												
9 家族療法、集団療法など理論と実践(支援のアラカルト)												
10 身体に働きかける支援法(1)自律訓練法やリラクセーション												
11 身体に働きかける支援法(2)動作法(DVD)												
12 イメージを用いる支援法(1)遊戯療法(子ども対象)(DVD)												
13 遊戯療法の実践(事例) グループディスカッションの実施												
14 イメージを用いる支援法(2)箱庭療法(DVD)。ほかの人の箱庭も味わう												
15 イメージを用いる支援法(3)夢分析												
ラ イ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○相談に来る人の立場に立って不安や懸念について書きだしながら想像する。実際に、自分で箱庭を作成したり、夢の記録をとって、グループでディスカッションする。よい聴き方についてはロールプレイを実施し、身体から心にアプローチする技法は実際に体験する。	工夫 その他	臨床心理学的支援法には、さまざまな理論と技法があるので、専門用語については、自分で調べ学習するように進めていく。折に触れ、講義の最後に、ライティングを課す。								
時間外学修の内容と時間の目安	準備 事前・事後関係なく、箱庭の作成と、夢の記録をつけることを、時間外の学習として指示する。箱庭療法や夢分析についても、本を読みながら、自己理解につなげていくように指示する。											
教科書	よくわかる臨床心理学 改定新版 ミネルヴァ書房 下山ら編著											
参考書	講義中に随時、紹介する											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	講義の最後のライティング	60%	○	○	○							
	最終レポート	40%	○	○	○							
注意事項	大学の公開講座となっているので、社会人の受講生もいることを承知しておいてください。グループ学習や実習的活動では、学生と社会人が混在します。(公開講座として受講する方は、カリキュラムツリーとして、「臨床心理学実践論」を受講する前に、「臨床心理学概論」を受講することをお勧めします)											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	臨床心理士・公認心理師
実務経験を いかした教 育内容	臨床心理士・公認心理師としての実際の経験も踏まえながら、実践的な講義を展開する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)					
H030P504		司法・犯罪心理学(Forensic and Criminal Psychology)				臨床心理学系					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員					
選択	2	2年	福祉健康科学部	後期		氏名 宮本 陽介 E-mail 内線					
授業の概要 犯罪者・非行少年の矯正、犯罪被害者および家事事件の当事者の支援には、司法・犯罪に関する基礎知識およびそれぞれの人格・心理学的な理解が欠かせない。犯罪、非行、犯罪被害に関する基本的事項、それぞれの心理と支援の在り方を学ぶ。家事事件の基礎知識を身に付け支援の在り方を学ぶ。											
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)											
目標1	法的仕組みと関連する機関の役割およびそこで働く人々の職務内容について説明できる。										
目標2	非行・犯罪理論および非行少年・犯罪者の心理について説明できる。										
目標3	司法機関・行政機関・矯正機関における非行少年・犯罪者の支援について説明できる。										
目標4	犯罪被害者の心理および支援の在り方について説明できる。										
目標5	家事事件の基礎知識の習得および心理的支援の在り方について説明できる。										
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											
授業の内容 1 犯罪・非行に関する刑法令および犯罪者の処遇の流れ・裁判員制度 2 少年に対する刑事司法制度と少年事件処遇の流れ 3 家庭裁判所・少年鑑別所と教育的措置 4 矯正・保護施設と教育的措置 5 非行・犯罪の要因とアセスメント 6 少年・犯罪者の更生支援の在り方 7 少年・犯罪者理解と対応1(事例検討およびグループ討議を含む) 8 少年・犯罪者理解と対応2(事例検討およびグループ討議を含む) 9 発達障害と非行 10 犯罪被害者の支援組織・制度と支援の在り方 11 非行・犯罪、犯罪被害に関するまとめ(意見発表を含む) 12 家事事件概論 13 家事事件手続法別表第一事件、別表第二事件の理解と当事者支援の在り方(DVD視聴を含む) 14 一般調停、特殊調停、人事訴訟事件の理解と当事者支援の在り方(グループ討議を含む) 15 総まとめ ライフワーク A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造 準備 配布資料や参考文献の情報を必要に応じて予習する(15h)。グループ討議の準備をする(3h)。 事後 授業中に配布されたレジュメ、資料、紹介された参考文献を復習する(15h)。 教科書 教科書は指定しない。適宜資料を配布する。 参考書 参考書は指定しない。授業の中で適宜紹介する。											
評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への取り組みおよびライティング	60%	○	○	○	○	○					
最終レポート	40%	○	○	○	○	○					
成績評価の方法及び評価割合											
注意事項	特になし										
備考	特になし										
リンク	URL										

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	家庭裁判所調査官、家庭裁判所調停委員
実務経験を いかした教 育内容	元家庭裁判所調査官・元家庭裁判所調停委員として、実際に担当した事例を加工したうえで講義する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H030S703		関係行政論(Legal and Administrative Systems)					隣接領域系										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・原	担当教員											
選択	2	2年	福祉健康科学部	前期		氏名 遠矢 洋平											
						E-mail 内線											
授業の概要	保健医療分野、福祉分野、教育分野、産業・労働分野、司法・犯罪分野において、心理専門職として実務に携わる際に知っておくべき基本的な法制度の基礎知識を学ぶ。講義では、実際の事件を取り扱った番組等の映像を素材にしながら行う。これにより、社会で実際に起きている事例が、法律によってどのように処理されているのか、法律にはどのような問題があるのか等を考えてもらう場としたい。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	心理専門職として知っておくべき基本的な法律や制度の基礎知識について説明できる						○										
目標2	司法分野の基本的な理念・手続きについて説明できる。						○										
目標3	司法分野における心理専門職の役割を理解し、説明できる。						○										
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 刑事事件① (法律とは何か? 刑事裁判と民事裁判の違い)																	
2 刑事事件② (捜査)																	
3 刑事事件③ (検察官)																	
4 裁判傍聴																	
5 刑事事件④ (えん罪事件)																	
6 少年事件①																	
7 少年事件②																	
8 公認心理士法																	
9 消費者事件とえん罪																	
10 保健医療分野に関する法制度 (医療法, 医師法, 精神保健福祉法, 医療観察法など)																	
11 教育分野に関する法制度 (教育基本法, いじめ防止対策推進法など)																	
12 福祉分野に関する法制度 (生活保護法, 児童福祉法, 児童虐待防止法, 離婚問題など)																	
13 産業・労働分野に関する法制度 (労働基準法など)																	
14 まとめ①																	
15 まとめ②																	
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					○	学生の皆さんと意見交換をしていながら、法制度についての考えを深めていきたいと考えています。					工夫 その他の	実際の刑事裁判を傍聴する予定です。				
時間外学習の内容と時間の目安	準備 犯罪や裁判に関する新聞記事等を日頃から注意して読んでみる。(15h)																
	事後 法制度が何のためにあるのか、どのように使われているのかを考えながら生活する。(15h)																
教科書	特にありません。必要に応じて資料を配付します。																
参考書	① 東野圭吾「手紙」文春文庫(2006) ② 東野圭吾「虚ろな「字架」」光文社(2014) ③ 早見和真「イノセント・デイズ」新潮社(2014)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	平常点	50%	○	○	○												
	レポート	50%	○	○	○												
	平常点は、発表時の発言内容や講義に取り組む姿勢、出欠状況を考慮して判断します。																
注意事項	特にありません。																
備考																	
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	弁護士
実務経験を いかした教 育内容	弁護士業務における経験や知識をもとにして、各講義を行う（刑事裁判における弁護人の活動内容や、少年事件における付添人の活動内容など。）

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主課】/(分野)											
H0305104		現代社会と福祉II (Contemporary Society Welfare II)					薬師系											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員												
選択	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 三好 慎之												
						E-mail niyoshi-yoshiyuk@oita-u.ac.jp 内線 7696												
授業の概要 本講義の目的は、社会福祉の理念および実践が社会の成熟と人権意識の高まりによって発展し、施策(制度)として形成された社会福祉を学習することにある。また、少子・高齢社会やグローバリズムの進展によって、社会構造が大きく変動していくなか、現代社会における社会福祉は、あらたな局面に直面している。本講義の第二の目的として、転換期にある日本社会の実態をグローバリズム、ローカリズムの視点でとらえ、現代社会に希求される社会福祉の実践や施策を検討する。																		
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	現代社会の問題、課題を説明できる。						○	○										
目標2	現代社会における社会福祉制度・実践の潮流を説明できる。							○	○	○								
目標3	学修で修得した知識を活用することができる。								○	○	○							
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 オリエンテーション 社会福祉の理念																		
2 家族の姿容と社会福祉																		
3 日本社会における福祉職の形成過程																		
4 保育士に求められる専門性																		
5 介護職に求められる専門性																		
6 専門職の課題と制度対応																		
7 現代の社会福祉法制度体系																		
8 子育て支援と社会福祉																		
9 介護への支援と社会福祉																		
10 社会福祉と地域の姿容																		
11 社会福祉行政と社会福祉施設																		
12 社会福祉における相談援助と利用者保護																		
13 社会福祉と権利擁護																		
14 諸外国における社会福祉の動向																		
15 専門職からみた社会福祉の課題と展望																		
ラーニンググループ	A:知識の定着・確認 ☐ ミニッツ・ペーパー。					工 夫 其 他 の	動画を活用する。											
	B:意見の表現・交換 ☐																	
	C:応用志向 ☐																	
	D:知識の活用・創造 ☐																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テキストや配布資料及び参考文献等から、用語の理解、法・制度、歴史的背景を学修する。(15h)																
	事後学修	テキストや配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学修した内容を深める。(15h)																
教科書	三好 慎之編(2015)『はじめての社会福祉論』法律文化社																	
参考書	1.一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4.社会福祉の原理と政策』中央法規																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	試験	60%	○	○														
	レポート課題	40%	○	○	○													
注意事項	私語は厳格に禁じます。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H030S301		ソーシャルワークの基盤と専門職(The Foundation of Social Work Profession)					相談援助技術系										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員											
選択	.2	1年	福祉健康科学部	後期		氏名 栄留里美											
						E-mail eidome@oita-u.ac.jp 内線 6098											
授業の概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解し、そのジレンマを考える。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)											
目標1	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ・意義・課題について述べることできる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標2	ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明できる。					○	○	○	○								
目標3	ソーシャルワークの価値規範と倫理について述べ、自分なりの考えを付け加えることができる。					○	○	○	○								
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 社会福祉士及び介護福祉士法・精神保健福祉士法・定義、専門性・法制度成立や見直しの背景																	
2 ソーシャルワークの概念・ソーシャルワークの定義																	
3 ソーシャルワークの基盤となる考え方・原理																	
4 社会正義・人権尊重																	
5 多様性の尊重・集団的責任																	
6 ソーシャルワークの理念—当事者主権とは																	
7 尊厳の保持・権利擁護																	
8 権利擁護・アドボカシー																	
9 自立支援・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション																	
10 ソーシャルワークの形成過程																	
11 ソーシャルワークの形成過程・慈善組織協会・セツルメント運動																	
12 ソーシャルワークの形成過程・医学モデルから生活モデルへ・ソーシャルワークの統合化																	
13 ソーシャルワークの倫理綱領—社会福祉士・精神保健福祉士																	
14 倫理的ジレンマとは																	
15 倫理的ジレンマの考察																	
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					○ ○ ○ ○	・グループディスカッション・口頭発表を通じて、単なる講義ではない問題解決型の学修を目指す。					工夫 その他の	・学びの到達度を把握するために、毎回の講義終了時にショート・ライティングを課す。				
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	次回のトピックについて調べ学習をする (10h) 口頭発表の準備をする (10h)															
	事後学修	ショートライティングを書くことで復習を行う (10h)															
教科書	指定しない																
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会(編)『ソーシャルワークの基盤と専門職』(中央法規)2020年																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	ショートライティング	20%	○	○	○												
	口頭発表	80%	○	○	○												
注意事項																	
備考	なし																
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030S106		福祉行政と福祉計画(Finance, Administration and Plan of Social Welfare)				隣接領域系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 飯田 隆次 E-mail 内線						
授業の概要 我が国の社会福祉及びその上位概念である社会保障について概説するとともに、社会福祉基礎構造改革などを踏まえた行政の実施体制（国と地方との関係、財源、組織及び団体、専門職など）について学ぶ。 また、介護保険制度などの個別の制度内容や、福祉計画の意義、目的、主体、方法などについて理解を深める。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1 社会保障のさまざまな制度を理解し、自らの生活と関係づける。						1	2					
目標2 現在の行政と財政の仕組みを理解し、その課題、将来の方向性を提案できる。						3	4					
目標3						5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 (福祉行政) 序論：福祉と制度、社会保障の変遷												
2 (福祉行政) 序論：福祉計画の概要												
3 (福祉行政) 行政の資格、社会福祉と法制度、福祉行政の組織、社会福祉基礎構造改革												
4 (福祉行政) 国・地方における社会保障関係費の動向、民間社会福祉事業の財源等												
5 (福祉行政) 社会福祉基礎構造改革、専門職機関												
6 (福祉行政) 介護・高齢者福祉制度												
7 (福祉行政) 子ども・子育て支援制度												
8 (福祉行政) 障害者福祉制度												
9 (福祉行政) 生活保護と低所得者対策												
10 (福祉行政) 年金、医療制度												
11 (福祉計画) 福祉計画の目的と意義												
12 (福祉計画) 福祉計画の基本的視点、福祉計画の策定過程と留意事項、ニーズ把握と評価												
13 (福祉計画) 老人福祉計画・介護保険事業計画、障害者基本計画、障害福祉計画												
14 (福祉計画) 次世代育成支援行動計画、子ども・子育て支援事業計画、地域福祉計画												
15 (まとめ) 社会保障を巡る最近の動向												
ラーニング	A:知識の定着・確認	○ ミニツバーバー（授業のポイント、疑問点、理解度等）の記入、ディスカッション					エ	その他の				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配付資料、行政機関のホームページや新聞掲載の関係情報を必要に応じて予習する（23h）。										
	事後	授業で学習した内容についての復習と課題の研究を行う（22h）。										
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。											
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座10「福祉行政と福祉計画」、中央法規出版（株）、2017年2月											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	最終課題（論文試験）	80%	○	○								
	ミニツバーバー（振り返りシート）	20%	○	○								
注意事項												
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					
H030S203		児童・家庭福祉論(Children, Young people and family welfare)					接続領域系					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 柴留里美 E-mail eidome@oita-u.ac.jp 内線 6098						
授業の概要 ①子どもが権利の主体であることを踏まえ、子ども・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。② 児童福祉の歴史と児童福祉の変遷や制度の発展過程について理解する。③ 子どもや家庭福祉に係る法制度について理解する。④ 子どもや家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉上の役割について理解する。⑤ 子ども・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。												
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)												
目標1	子ども家庭福祉の理念、制度施策、実践のあり方など、実践に必要な基本的かつ包括的な内容や視点について理解し説明できる。	○										
目標2	子ども家庭福祉実践に必要な技術や倫理について理解し説明できる。	○										
目標3	子どもや保護者等のニーズに対応する社会資源について理解し説明できる。	○										
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	児童家庭福祉の理念・子ども・家庭の定義と権利											
2	子ども・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会課題											
3	子どもの権利擁護と児童家庭福祉											
4	児童家庭福祉の歴史・制度と実施体制											
5	子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割											
6	子育て支援サービス・保育サービス・母子保健											
7	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス											
8	子どもの貧困対策・ひとり親家庭等の家庭支援											
9	社会的養護											
10	障害児支援											
11	少年非行等への対応											
12	グループ発表 子ども虐待防止											
13	グループ発表 社会的養護											
14	グループ発表 障害児・インクルーシブ											
15	グループ発表 少年非行等への支援											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ グループディスカッションを多用する。また、関心のあるテーマについてグループで調べ、問題解決のための新たな方法を開発する。 ☐ ☐ ☐	工夫	その他の	ショートライティングによって、理解度を確認し、質疑応答を行う。							
時間外学習	準備	次回のトピックについて調べる (10h)。										
時間外学習	事後	ショートライティングを書く (10h)										
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。											
参考書												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	ショートライティング	30%	○									
	口頭発表	70%	○	○	○							
注意事項	なし											
備考	なし 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)								
H030S204		障害児・者福祉論(Social welfare for disabled people)					隣接領域系								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・歴	担当教員									
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 滝口 真									
						E-mail 内線									
授業の概要 障害の概念と特性を踏まえ、障害児・者とその家族の「生活を包括的に支援する」という視点に立ち、障害児・者を取り巻く社会環境について理解する。また、障害児・者福祉の歴史と障害観の変遷に加え、障害児・者の法制度と「多職種連携による支援の仕組み」について理解する。さらに、障害児・者に生じる生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる「知識・技能・価値」の修得および適切な支援のあり方を理解する。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)									
目標1	障害概念と特性について理解できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2	障害児者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境について「生活を包括的に支援する」視点について理解できる。							○	○						
目標3	障害児者福祉の歴史と法制度および「関係機関と専門職」の役割について述べるができる。					○			○						
目標4	障害児者とその家族等に対する支援の実態について、専門職としての「知識・技能・知識」について説明ができる。					○	○								
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1 障害児者福祉を学ぶ意義、国際生活機能分類(ICF)と障害者の定義と特性(ICIDHからICFへ、ICFの構造、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害等)															
2 障害児者の生活実態(地域移行、居住、就学・就労、高齢化、介護需要、障害者の芸術・スポーツ等)															
3 障害児者を取り巻く社会環境(バリアフリー、コンフリクト、障害者虐待、親亡き後問題、きょうだいへの支援等)															
4 障害児者福祉理念と障害観の変遷及び障害児者処遇の変遷(ソーシャルインクルージョンまでの変遷、偏見と差別、障害者関係法変遷、障害児者の処遇史)															
5 障害者の権利条約と障害者基本法及び障害児者福祉制度の発展過程(障害者権利条約の概要、障害者基本法の概要等)															
6 障害者総合支援法(障害者総合支援法概要、障害者サービス及び相談支援、障害支援区分及び支給決定、自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等)															
7 身体障害者福祉法と知的障害者福祉法(身体障害者福祉法と知的障害者福祉法の概要、身体障害者手帳と療育手帳、各福祉法に基づく措置等)															
8 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と児童福祉法(精神保健福祉法概要・入院形態と処遇、対象手帳、児童福祉法の障害児支援概要、発達・家族・地域支援等)															
9 発達障害者支援法と障害者虐待防止法(発達障害者支援法概要、発達障害者支援センターの役割、障害者虐待防止法概要、障害者虐待未然防止、通報義務、早期発見等)															
10 障害者差別解消法の概要と高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)の概要(合理的配慮、施設設備管理者等の責務)															
11 障害者雇用促進法の概要と国等による障害者就労施設等からの物品等に関する法律(事業主の責務、法定雇用率、障害者優先調達推進法の概要、障害者就労施設等)															
12 障害児者と家族等の支援における関係機関の役割(国・都道府県・市町村、障害者に対する法制度に基づく施設・事業所、特別支援学校、ハローワーク等)															
13 障害児者と家族に関連する専門職等の役割(医師・看護師・理学療法士等、相談支援専門員・サービス管理責任者等、ピアサポーター、SSW、住民・ボランティア等)															
14 障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割並びに障害者と家族等に対する支援の実態(多職種連携を含む)・(地域相談支援、就労支援、居住支援等)															
15 全体総括と展望、これからの障害児者福祉															
リアクティブ モニタ ング	A:知識の定着・確認	○	小レポート等の学習成果物を作成して下さい。グループによる意見交換を行います。授業の最後にリアクションペーパーの提出をお願いします						エ 大 そ の 他 の	講義のポイントについて適宜、意見を求める。 講義のテーマに関する資料を別途配布する。					
	B:意見の表現・交換	○													
	C:応用志向	○													
	D:知識の活用・創造	○													
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学習	テキストおよび配布資料を精読し、理解が難しい用語を事前に調べておきましょう(30分)。													
	事後 学習	授業で学習した内容を振り返るために小テストおよび配布資料を用いて復習を行いましょう(30分)。													
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成課程 共通科目 ④『障害者福祉』』中央法規出版、2021年(各自最新版を準備下さい。)														
参考書	滝口 真・福永良逸共編著、『障害者福祉論 ―障害者に対する支援と障害者自立支援制度―』、法律文化社、2010年(購入の必要はありません。適宜必要な箇所を単元にに応じて紹介します。)														
成績評価 の方法 及び 評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	小レポート	15%	○	○	○	○									
	発表報告	15%	○	○	○	○									
	期末テスト	70%	○	○	○	○									
注意事項	席は間隔をあけてソーシャルディスタンスに心がけましょう。														
備考	疑問などが生じたら、その都度、質問して下さい。														
リンク	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030S208		就労支援サービス(Employment Support Services)				関係領域系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	1	2	福祉健康科学部	後期		氏名 中村 廣光 E-mail 内線						
授業の概要 社会福祉士の相談援助活動において必要とされる、就労支援政策や支援制度及び就労支援対象となる人々の実状について理解すると共に、就労支援に携わる組織、団体、専門職の役割や大分県における実際の活動状況について理解する。また、社会保障費の効用化の視点や就労支援を行っていく上で要請される区療・保健福祉・NPO活動等関連領域の専門職や支援者との連携のあり方についても理解し、実状を把握する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1 我が国における、雇用・就労の実状と支援政策・制度、それに関する問題・課題を説明できる。						○						
目標2 就労支援組織・団体、専門職の実態を知り、その果たしている役割や連携の仕方を説明できる。						○						
目標3 就労に困難を抱える人々の実情や特性を理解し、それぞれに応じた支援施策や具体的方法を説明できる。						○						
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 我が国における雇用・就労の動向												
2 就労支援を必要とする人々の実状												
3 就労支援施策と制度												
4 就労支援に関わる行政機関の役割と実態												
5 就労支援に直接関わっている機関や組織の役割と実態												
6 就労支援を行う専門職とその役割												
7 就労支援における他領域の専門職、支援者との連携の方法と実態												
8 特別な支援を必要としている人々の理解と支援のポイント、～発達障害・NRETT・ひきこもり～												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	グループによる話し合いと意見交換				工夫その他の					
	B:意見の表現・交換	○	専門性の高い授業内容については、ワークシートを配布し、「課題解決アプローチ学習」を行う									
	C:応用志向	○										
	D:知識の活用・創造	○										
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	TVニュースや新聞記事、雑誌等を通じて、雇用・就労問題への関心を高めてください(8h)。										
	事後学習	授業ごとに配布するテキスト資料に再度目を通し、専門用語、法・制度を十分にマスターしてください(8h)。										
教科書	使用しない。授業ごとにパワーポイント・テキスト資料、課題解決用ワークシート、授業俯瞰シートを配布。											
参考書	「産業カウンセリングハンドブック第5版」 日本カウンセリング学会監修 金子書房2006年 「障害者総合支援法がよくわかる本」 福祉行政法令研究会著 秀和システム2019年 「ひきこもり支援論」 竹中哲夫著 明心書店2010年											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験	80%	○	○	○							
	ワークシートの作成・提出	20%	○	○	○							
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)											
H0305208		更生保護制度(Offenders Rehabilitation)				隣接領域系											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	1	2年	福祉健康科学部	後学期		氏名 甲斐祐治、比良千奈美 E-mail shien@saiseikai-teichaku-oita.net 内線											
授業の概要 近年、障害や貧困など犯罪の社会因子が次第に明らかとなり、これへの対応が重要な課題となっている。関わって、刑務所への社会福祉士の配置や地域生活定着支援センターの創設など、ソーシャルワークの活動領域が広がってきている。本講義では、更生保護を中心に司法福祉分野の理解を深めるとともに、地域定着の実際の事例も活用しながらそこでソーシャルワーカーに必要とされる基本的技術について学ぶ。																	
具体的な到達目標						BP等の対応(別表参照)											
目標1	犯罪の生起要因について説明できる。					○											
目標2	生起要因の分析から再犯防止の方策について説明できる。					○											
目標3	再犯防止方策におけるソーシャルワーカーの役割機能について説明できる。					○											
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 犯罪の社会因子と地域生活定着支援事業について(2020年8月地方再犯防止推進計画概要、2021年1月入り口支援事業概要)																	
2 矯正施設における処遇と現状																	
3 刑務所入所者の心理と家族心理を考える① (DVD鑑賞) レポート提出																	
4 刑務所入所者の心理と家族心理を考える② (DVD鑑賞) レポート提出																	
5 更生保護制度、医療観察制度の概要(保護観察・生活環境調整・仮釈放・更生緊急保護・恩赦・医療観察法)																	
6 更生保護の担い手(保護観察官・保護司、更生保護施設・民間協力者)																	
7 被疑者・被告人支援、被害者支援																	
8 地域生活定着支援センターの援助事例を用いたグループワーク																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					☐ 講義で扱う事例はすべて実際の担当ケースである。「自分だったらどのよう ☐ ような支援をするのか」について、 逐次発言を求める。	エ 大 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 例えば、非行に至った同級生等、触法行為をしたケースをプライバシーに留意しメモ書きを作成。(1h) 事後学修 犯罪者家族の苦悩に関する文献学習(講義内で文献を準備します)(20h)																
教科書	使用しない。																
参考書	なし																
成績評価方法	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
課題レポート						100%	○	○	○								
評価方法の 方法及び 評価割合																	
注意事項	なし																
備考	なし																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	社会福祉士としての臨床経験約20年
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	大分県地域生活定着支援センター職員
実務経験を いかした教 育内容	学問的なことのみを伝えるのではなく、実務で経験した事例を具体的に挙げ、支援に関わる制度的な繋がりや本人を主体とした支援のあり方等を伝えていく。

[illegible]

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	臨床心理士（武内珠美、渡辺亘、溝口剛、河野伸子、池永恵美、岩野卓、飯田法子）
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	臨床心理士・公認心理師等
実務経験を 有内容	医療領域見学実習、福祉領域実習ともに、多様な専門職が連携・協働して支援にあたっている。学生は、実習を通じて、体験的な問題意識を養うことができ、現場 いかした教の専門職から仕事に対する姿勢や具体的なかわりの仕方を学ぶことができる。また、担当教員に臨床心理士有資格者が多いことから、学生が実習体験で見出した 困りや疑問に対しても、実務経験に基づいた具体的な考え方や理解、対応の仕方について提案することが可能である。